

令和 6 年度 事業報告

社会福祉法人ふれあい

令和6年度 法人本部 事業報告

（1）理事会の開催

○ 令和6年6月6日

第1号議案 令和5年度 法人本部及び各事業所 事業報告について
第2号議案 令和5年度 法人本部及び各事業所 決算報告について
第3号議案 令和5年度 監事監査報告について
第4号議案 社会福祉法人ふれあい 役員の報酬について
第5号議案 社会福祉法人ふれあい 定時評議員会の招集について
第6号議案 社会福祉法人ふれあい 次期評議員選任・解任委員の選任について
第7号議案 社会福祉法人ふれあい 就業規則の一部変更について
第8号議案 社会福祉法人ふれあい 契約職員就業規則の一部変更について
第9号議案 社会福祉法人ふれあい サン・フラワーパート職員就業規則の一部変更について
報告 告 理事長の職務執行状況について
その他

○ 令和6年9月28日

第1号議案 社会福祉法人ふれあい 契約職員就業規則の一部変更について
第2号議案 社会福祉法人ふれあい パート職員就業規則の一部変更について
第3号議案 社会福祉法人ふれあい サン・フラワーパート職員就業規則の一部変更について
第4号議案 特養松楽苑 特殊浴槽更新について
第5号議案 サン・フラワーの運営状況について
その他

○ 令和6年11月16日

報告事項① サン・フラワー苑 運営改善報告について
報告事項② サン・フラワー苑 事故報告について
第1号議案 特養松楽苑 及び サン・フラワー苑大規模修繕について
その他

○ 令和6年12月21日

第1号議案 法人本部及び各事業所 令和6年度中間報告について
第2号議案 法人本部及び各事業所 令和6年度補正予算案について
第3号議案 社会福祉法人ふれあい 運営規程の一部変更について
第4号議案 社会福祉法人ふれあい 就業規則の一部変更について
第5号議案 ヘルパーステーションふれあい 介護保険外サービスの開始について
第6号議案 特養松楽苑 大規模修繕について
第7号議案 資産運用について
報告事項① 法人本部 実地指導監査結果報告
報告事項② 理事長の職務執行状況の報告
その他

○ 令和7年3月25日

第1号議案 令和6年度法人本部及び各事業所 事業報告について
第2号議案 令和6年度法人本部及び各事業所 補正予算案について

第3号議案	令和7年度法人本部及び各事業所 事業計画案について
第4号議案	令和7年度法人本部及び各事業所 当初予算案について
第5号議案	社会福祉法人ふれあい 就業規則の一部変更について
第6号議案	社会福祉法人ふれあい 給与規則の一部変更について
第7号議案	社会福祉法人ふれあい各事業所 運営規程の一部変更について
第8号議案	社会福祉法人ふれあい 育児・介護休業等に関する規則の一部変更について
第9号議案	特養松楽苑 廉価外部委託契約更新について
第10号議案	特養 松楽苑 大規模修繕について
第11号議案	徴収不能額について
第12号議案	サン・フラワー苑 居室料の改定について
報告事項①	理事長の職務執行状況の報告
報告事項②	サン・フラワー苑 運営改善報告について
報告事項③	令和5年度簡易経営診断結果について
その他の議案	その他の議案

(2) 評議員会の開催

[定時評議員会]

○ 令和6年6月22日

報 告	令和5年度 法人本部及び各事業所 事業報告について
第1号議案	令和5年度 法人本部及び各事業所 決算報告について
第2号議案	令和5年度 監事監査報告について
第3号議案	社会福祉法人ふれあい 役員の報酬について
その他の議案	その他の議案

(3) 監事監査の実施

○ 令和6年5月28日

令和5年度社会福祉法人ふれあい・事業報告及び決算報告についての監事監査

(4) 行政、関係機関の指導等

○ 令和6年7月9日

令和6年度 社会福祉法人指導監査説明会・研修会

○ 令和6年8月23日

令和6年度 第1回介護保険事業者集団指導 全事業所対象 (Zoom)

○ 令和6年10月17日

松江市 令和6年度実地指導監査 [法人本部]

○ 令和7年3月

令和6年度 第2回介護保険事業者集団指導 全事業所対象 (資料配布)

(5) 外部監査

○ 令和6年8月16日

公認会計士・税理士 による外部会計監査

(6) 研修関係

○ 令和6年12月

令和6年度社会福祉法人監事研修 (e ラーニング)

(7) 総括及び活動報告

令和6年度の法改正によりヘルパーステーションを始めとして、全国的に厳しい運営状況となつた。当法人も単価改正の影響を受けると共に利用者減少に伴い、昨年以上に厳しい状態であった。

現状改善の為に理事も参加し、改善計画を策定して改善に努めたが、まだ実現途中にある。PR活動も殆んどしていない状況でサン・フラワー苑に20名弱の方が入居されたのは、今後の可能性としては高い。運営理念に沿って独自性と実践力を高めていく事が一層重要となる。

①理事会・評議員会

役員会は規程に沿って開催した。

②監査

法人監査、公認会計士による外部監査を計画的に実施した。

③役員研修会

コロナ他感染状況は改善してきたが、外部への研修はeラーニングによる参加をした。
ミニ研修会については出席した研修内容を資料として配布し、理事会に於いて報告した。

④職員指導・教育について

職員指導を兼ねて法人の理念、職場の倫理等の徹底を計り、人材育成に努めた。

コロナ禍で外部への研修は限定されたが、オンラインにより、より多くの研修を実施することが出来た。又、法人全体で感染防止についての実技を含めた研修を実施し、参加者も多かった。

年間の苑内研修計画も事故防止、虐待防止等テーマを定めて実践した。吸引資格については取得の為の助成を行い各事業所に於いて有資格者の確保に努めた。

また、毎月1回、管理的立場の職員で運営に対する話し合いを行った。

⑤生活環境の整備

- ・感染防止に関する防護服・マスク・消毒剤他設備、備品の充実に努めた。
- ・修繕や改修、備品の更新も早期に実施し生活環境を整えた。松楽苑に於いては老朽化も著しいため大規模修繕をして、プライバシーを確保し、終のすみ家としての環境を整える為、次年度に向けて計画中である。
- ・施設のユートピア創りの為に、徐々にではあるが環境整備の取り組みを実践している。

⑥地域貢献

- ・地域の独居老人の安否確認は継続している。松楽苑開苑記念日の手作りクッキー配付や地区のなごやかよりあいに依頼され、リハビリ体操に講師として参加した。
- ・地区の公民館活動の一環として各事業所の利用者の作品を展示させていただき、地区の方に喜んでいただけた。
- ・災害時における協力施設としての存在。

⑦借入金返済

計画通りに返済した。

⑧利用者確保について

- ・各事業所から参加し、サン・フラワー業務改善委員会を立ち上げた。改善計画書に基づいて現状の評価をして改善に努めたがスローペースで計画書の3分の1程度の実践しか出来なかった。
- ・パンフレットの配布やPR活動も消極的であった。大きな活動も無く、年間で20名近くの方の入居となったのは逆に可能性は無限だともいえる。

令和6年度 特別養護老人ホーム松楽苑事業報告

高齢化・重度化に伴い入院率も高くなり、入院期間が長期となる利用者も多く運営に大きく影響した。異常の早期発見、早期受診に繋がる職員の観察力をさらに高めていく必要がある。

また、今年度は新型コロナやインフルエンザ等の感染症の罹患者も無く、穏やかに過ごして頂くことが出来た。引き続き徹底した感染対策を行って行きたい。

高齢化・重度化や感染防止を行う中で外出の機会も限られたが、地域性を生かした行事や施設独自の行事を実施し、利用者に喜んで頂くことが出来た。

1. 管理部門

(1) 諸会議の開催

職員会議（全職員）	月1回を基本に開催
運営会議（施設長、各事業所長及び部門リーダー）	
看護職会議（看護職員）	
介護職会議（介護職員）	
給食会議（施設長、栄養士、看護職、委託業者他）	
身体拘束廃止委員会（委員）	
虐待防止委員会（委員）	
事故防止委員会（委員）	
床ずれ防止委員会（委員）	
感染防止委員会（委員）	
研修委員会（委員）	
防災委員会（委員）	
排泄委員会（委員）	
環境整備委員会（各職場代表）	
喀痰吸引安全委員会	
広報委員会（委員）	
入苑者懇話会（施設長、生活相談員）	
ふれあい運営会議（各事業所代表）	

(2) 職員研修

① 外部研修

労務管理研修、高齢者虐待防止研修、高齢者施設感染対策研修、結核講習、原子力災害時の避難対策研修、会計実務研修、防火管理講習、危険物取扱者更新講習に参加した。防火管理講習では資格取得することが出来た。

② 施設内研修

倫理・法令遵守、身体拘束廃止・高齢者虐待防止、感染防止、認知症ケア、BCP訓練・非常災害時の対応等についての月1回を基本とした全体研修と介護職員研修を行った。サン・フラワー苑との合同研修では感染防止について実技を中心とした研修を行い、各事業所職員がレベルアップを図ることが出来た。

年1回のサン・フラワー苑との合同研修以外でもサン・フラワー苑からの積極的な研修参加があった。

① 研修参加者（延べ人数）

・外部研修（全職員）	10回	12人
・施設内研修（全職員）	11回	137人
		合計 21回 149人

（3）職員の健康管理

・健康診断	夜勤職員	年2回実施
	その他職員	年1回実施
・インフルエンザ予防接種	全員	

（4）防災対策

○活動内容

4月	(夜間想定)避難訓練、通報訓練、放水訓練	10月	(夜間想定)避難訓練、通報訓練、放水訓練
5月	(夜間想定)避難訓練、通報訓練、放水訓練	11月	(夜間想定)避難訓練、通報訓練、放水訓練
6月	(夜間想定)避難訓練、通報訓練、放水訓練	12月	非常連絡網の伝達訓練
7月	非常連絡網の伝達訓練	1月	(夜間想定)避難訓練、通報訓練、放水訓練
8月	(夜間想定)避難訓練、通報訓練、放水訓練	2月	(夜間想定)避難訓練、通報訓練、消火器訓練
9月	(夜間想定)避難訓練、通報訓練	3月	通報訓練、原子力災害訓練

計画に沿っての毎月1回の訓練と隨時防災チェック（避難経路確保、居室の安全確認、排煙窓の動作確認など）を実施し、苑内研修では防災意識に対する注意喚起、啓発活動を行った。また、原子力災害訓練も実施し、発生時の動きや各職員の役割確認を行った。

（5）設備等の保守管理

施設建物に関係する電気・防災・浄化槽・ボイラー等についての保守は、それぞれの管理委託先業者により実施した。

（6）物品等の取得

固定資産物品

- ・全自動洗濯機 15万4千円
- ・ガス給湯器 12万6千円
- ・スチーム清拭車 21万7千円
- ・消毒保管庫 48万6千円
- ・エレベートバス（特殊浴槽） 490万6千円
- ・ガス衣類乾燥機 26万4千円×2台

器具備品

- ・掃除機
- ・センサーマット
- ・モノクロA3プリンター
- ・加湿器 5台
- ・車椅子 3台 他

（7）研修等の受け入れ状況

- ・職場体験

（8）ボランティアの受け入れ状況

- ・2団体

タオル、ウエス他ご協力いただいた方

- ・個人 12名

（9）入所ご利用者預り金管理

預り金の管理は実施していない。

令和7年3月31日現在

人数	0名
金額	0円

2. 生活相談部門

利用者からの日常生活の場面での意見や入苑者懇話会での声を介護現場と共有し問題解決に努めた。5床のショートステイについてはひとりの方が長く利用されるケースも増え安定した稼働となった。しかし、特養入所利用者の高齢化、重度化に伴い入院利用者数や長期入院の方が増えショートステイの空床利用分については空きが目立った。

地域行事の参加については前年度と同様に文化祭への作品展示、本庄まつり（花火鑑賞）に参加した。また、開苑記念日のふれあい訪問（クッキー配り）、地域の見守り訪問は継続して実施することが出来た。中学校の職場体験学習の受入も行い、職員共々良い学びの機会となった。

3. 機能訓練部門

3ヶ月毎の評価及び個別機能訓練計画書の作成を行い、計画に基づきリハビリが実施できた。個別にあった訓練やポジショニング、必要に応じたリハビリ頻度の調整ができ、拘縮の大きな増悪を伴うことは少なかったと感じる。しかし体調不良や入院により筋力・ADL 低下、拘縮増悪を伴う症例はあった。その際には、今後も転倒予防も含め適切な予後予測をして対応していく。介護場面での過剰な介助が ADL 低下にも繋がるため、必要に応じて注意喚起していく。また介護スタッフに対し「なぜこのようなポジショニングが必要か」「なぜ転倒予防をしなければならないか」を考えながら実践していくために助言も必要と考える。

4. 介護支援専門員部門

介護職、看護職と連携し、利用者状況の把握に努め、毎週開催のカンファレンスにおいて、個々の利用者の問題課題について多職種で検討を行い、ケアプランを修正し改善に向け実践した。

各チームで毎月実施している評価を参考にケアプランについてモニタリングを行い、必要に応じて見直し、修正した。

作成したケアプラン、修正したケアプランは家族へ送付し同意を得た。

5. 看護職部門

令和6年4月に7名の方の入退所があり、年間を通して23名の入退所があった。入院率も高く、一回の入院が長期化したりとなかなか退院が出来ない状況もあった。入院で1番多かったのは肺炎、続いて尿路感染が多かった。予防的な健康管理と日々のケアを丁寧に行なうことが、異常の早期発見と早い段階での投薬治療へ繋げるポイントであり、看護師間の連携や他職種間連携も重要なカギとなる。

感染においては新型コロナウイルス、インフルエンザ等は職員が持ち込まないように徹底が図れた。今後も職員への指導を隨時行っていく。

利用者の高齢化に伴い、介護度の重度化、複合する持病による入院率も上がっているが、看護師ひとりひとりが自己研鑽を行い日常の中で細かく健康管理が行えるよう努力していく。又、利用者の家族背景も年々複雑化している中で、家族の代わりとしてしっかりととした対応を心掛けていきたい。

6. 介護部門

令和6年度は「利用者の生活支援をプロの考え方、目線で実践する」を目標に介護実践を行った。誰が対応しても変わりなく統一したケアが実践出来る様、利用者それぞれの個別理解、介護技術や知識の習得など職員教育に重点を置いた。結果として良い介護実践が出来る職員も増えたが、一部技量のバラつきが見られ、介護に差が出てしまっていた。職員間の技量の差を埋めるべく個別での指導体制を強化し、誰が関わっても利用者が安心して頂ける介護現場にしていく。日頃の体調管理については医務との連携はもちろんのこと、一つ一つ誠心誠意関わり予防介護を実践することで健康管理をしていく。

7. 栄養部門

栄養ケアプランについては定期的な見直しと、利用者の状態変化の都度見直しを行った。

食事が進まない利用者の個別対応については、介護職・看護師・訓練指導員と協働し、どのようにすれば食べていただけるか、食事の形態、自助具及び食器の選択、食事時の姿勢、介助の仕方、食事席の選択等を検討し情報共有した。

外部委託業者との連携については日常的に、また月1回の給食会議において改善事項について意見交換し、早期改善の対応をして頂けた。行事食については今年度も好評だった。

利用者にとって「食べること」は栄養を摂ることだけでなく楽しみのひとつである。毎日の3食が楽しみの時間となるよう次年度も対応していく。

令和 6 年度 松楽苑利用者概要（入苑者の状況）

（1）性別・年齢別【人】

令和 7 年 3 月 31 日現在

性別 \ 年齢	60 歳 ～64 歳	65 歳 ～69 歳	70 歳 ～79 歳	80 歳 ～89 歳	90 歳 以上	計	平均年齢
男	0	0	1	2	2	5	86.4
女	0	0	3	19	22	44	89.7
計	0	0	4	21	24	49	89.3

（2）主要現症（入所申し込み診断書）【人】

	脳卒中		脳動脈硬化症	骨折	変形性脊椎症	変形性腰痛症	リューマチ	パーキンソン	高血圧症	糖尿病性神経炎	認知症	計
	脳梗塞	その他										
男	1	1	0	1	1	0	0	2	2	0	2	10
女	7	5	0	13	2	4	2	0	21	2	15	71
計	8	6	0	14	3	4	2	2	23	2	17	81

（3）日常生活動作【人】

			食事			起座			立ち上がり			排泄		
			自立	介助	全介	自立	介助	全介	自立	介助	全介	自立	介助	全介
人数			19	11	19	12	15	22	6	20	23	1	23	25
着脱衣			入浴			歩行			寝返り			車椅子使用		
自立	介助	全介	自立	介助	全介	自立	介助	不可	自立	介助	全介	自立	介助	全介
0	27	22	0	21	28	3	1	45	9	13	27	4	6	35

(4) 医療受診の状況【人】

令和6年度中

年月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
嘱託医	日数	9	8	8	9	7	9	9	9	8	8	7	8	99
	人数	53	61	48	48	60	60	77	89	81	63	64	55	759
外部医師来診		50	25	25	29	27	30	50	30	28	27	27	30	378
通院	内	4	4	5	3	4	2	2	5	4	0	0	5	38
	外・整形	0	0	0	0	0	1	0	0	2	1	2	1	7
	眼	1	0	0	0	1	1	3	1	1	1	0	0	9
	皮膚	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	その他	1	0	1	0	4	3	2	1	2	0	1	0	15
	歯	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	通院計	6	4	6	3	9	8	8	7	9	2	3	6	71
入院		1	8	1	1	3	3	3	8	7	4	8	6	53
健康診査		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28	28

(5) 給食

令和7年3月31日現在

区分	主食	副食	備考
普通	8	8	糖尿食 5名
きざみ	おにぎり 0	9	
超きざみ	かゆ 20	12	
ミキサー	7	11	
ソフト	5	0	
経管	9		

(6) 施設利用状況(実績)

令和6年度中

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所	入苑	6	1	0	1	1	3	1	1	2	2	4	1	23
	死亡	5	0	0	1	2	1	1	2	0	1	4	1	18
	退苑	2	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1	0	6
	1日現在入苑者	50	50	50	50	50	49	50	50	48	50	50	49	596
在宅福祉	ショートステイ	88	112	108	137	156	138	137	129	117	114	122	137	1,495
	入浴サービス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

特養入所 年間稼働率 99.05 % 入院率 6.22 %

短期入所 年間稼働率 48 % (空床利用含む)

(7) 要介護度別利用者数

令和7年3月31日現在

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
男性	0	0	1	3	1
女性	0	1	11	21	11
計	0	1	12	24	12

平均介護度 3.95

令和6年度 本庄デイサービスセンター 事業報告

居宅サービス計画書に沿って通所、予防介護計画書を作成し、サービスについて家族、本人に説明し同意を得た。

デイ生活を楽しく過ごして頂くよう、入浴・レク・体操等がマンネリ化にならないよう努めた。今後も継続していく。

1. 令和6年度 利用実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実利用者数	28	28	29	28	29	29	30	27	28	26	27	25
延べ利用者数	281	291	285	289	219	288	266	275	270	250	232	239
稼働率	94%	94%	95%	93%	71%	96%	86%	92%	87%	81%	83%	77%

平均稼働率 87%

2. 介護支援専門員との連携

随時担当者会議に参加し連携を図り、月末には情報提供書を作成し報告を行った。

利用時の体調の変化や、家族からの要望等があれば、速やかに報告し対応した。次年度も継続していく。

3. 職員の資質の向上

研修	感染症対策について・PPEについて、認知症ケア・虐待防止・身体拘束衛生的な手洗い手指消毒・接遇マナー・緊急時対応・法令遵守・倫理・入浴・排泄・食事介助・食中毒の予防・BCP（業務継続計画）・接遇マナー・スピーチロック・送迎について・介護事故予防の基本知識を理解してケアに活かす原子力災害について・非常時災害時の対応・事故防止・誤嚥性肺炎と予防策ふれあい合同研修：感染症の予防及びまん延の防止について
----	---

防災訓練（デイ消火栓にて放水訓練）、原子力災害訓練を行う。

事業所内研修の他、苑内研修に参加し、職員の資質向上に努めた。

島根県老人福祉施設協議会研修大会において「コロナ禍におけるレクリエーションについて」をテーマに実践発表を行った。

4. 利用者、家族との信頼関係

送迎時や連絡帳の活用により家族との情報交換を密にし、利用者、家族の要望にその都度対応した。連絡事項等を速やかに職員間で情報共有した。今後も利用者、家族との信頼関係を築いていきたい。

5. 機能訓練、レクリエーションの充実

利用者が無理せず、動かせる範囲で参加出来る内容の体操を工夫しながら行った。

レクリエーション（作品作り、ゲーム、カラオケ、毎月のカレンダーのぬりえ等）については、毎回楽しく参加して頂いた。

6. 各サービスの充実

異常時には主治医、家族、ケアマネに報告を行い指示のもと対応を行った。

朝礼を継続して行い、前回の利用者の特記事項等の情報を共有し職員同士連携を図った。

職員の自己評価、利用者懇話会での内容について事業所評価を行い改善を図った。

地域貢献活動として、新庄地区に健康体操に出かけた。沢山の方に参加して頂くことが出来た。

令和6年度 本庄居宅介護支援センター 事業報告

	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
	合計	サンフ	その他																																	
総件数	155	66	89	161	67	94	157	64	93	159	59	100	159	61	98	164	61	103	165	61	104	163	62	101	164	63	101	153	62	91	161	67	94	168	66	102
要支援1	28	7	21	26	6	20	28	5	23	29	4	25	30	4	26	30	4	26	29	4	25	27	6	21	30	6	24	28	5	23	30	6	24	31	6	25
要支援2	23	3	20	23	3	20	23	3	20	25	4	21	21	4	17	24	4	20	22	4	18	24	4	20	25	4	21	25	3	22	24	3	21	24	3	21
要介護1	40	24	16	39	25	14	41	25	16	39	22	17	37	21	16	38	20	18	37	17	20	38	17	21	38	16	22	35	18	17	41	20	21	42	19	23
要介護2	24	14	10	31	15	16	29	15	14	31	15	16	34	17	17	35	17	18	38	19	19	37	20	17	36	20	16	35	21	14	34	21	13	39	21	18
要介護3	20	8	12	22	9	13	18	8	10	19	8	11	21	8	13	20	8	12	22	8	14	22	9	13	21	11	10	19	10	9	19	10	9	20	10	10
要介護4	13	8	5	13	7	6	11	6	5	10	5	5	10	5	5	12	6	6	12	7	5	12	6	6	10	6	4	7	5	2	8	5	3	8	5	3
要介護5	7	2	5	7	2	5	7	2	5	6	1	5	6	2	4	5	2	3	5	2	3	3	0	3	4	0	4	4	0	4	5	2	3	4	2	2

利用者数の減少や特定事業所集中減算により減収となっている。安定した在宅生活を送っていただくために、継続したサービス利用ができるよう利用者把握や調整を迅速に行い事業の安定を図っていきたい。

1. 事業運営の安定

認知症状への対応や排泄ケアの負担感が施設入所移行のきっかけとなりやすいため負担軽減や機能維持をより一層図っていくことが必要である。在宅の方は認定の軽度化、重度認定者は施設といった傾向になっているが、収益の均衡も考慮しつつ軽度者の受け入れ、利用者確保を行い、安定的に事業運営を行っていきたい。

2. 地域活動への参加

独居や高齢二人暮らしの在宅利用者についての課題を民生委員に情報共有し介護保険サービスやインフォーマルサービスを活用し在宅生活の不便の解消に努めた。地域での世話役の高齢化、なり手不足も課題となってきたことから介護事業者の役割の検討も必要となってきている。

3. 危機管理

天候不順の際、コロナ等感染流行時のサービスを継続できるよう対応することや、利用が難しい場合代用サービスを迅速に調整することで利用者の機能低下を防止していく必要がある。業務継続計画の見直しや訓練を行い実務に即したものに随時変更していく。

4. 研修報告

- ・BCP研修（苑内）
- ・主任介護支援専門員更新研修
- ・個別地域ケア会議
- ・ブロック連絡会
- ・美保関地区民生委員会
- ・八東地区民生委員会
- ・個別地域ケア会議研修
- ・虐待防止、身体拘束研修
- ・感染防止 誤嚥性肺炎（苑内）
- ・第一回集団指導
- ・介護支援専門員更新研修
- ・適正化研修
- ・ヤングケアラー研修 法定研修
- ・BCP訓練
- ・松東地区医療連携会
- ・福祉用具の基礎知識 法定研修
- ・本庄地区民生委員会

令和6年度 軽費老人ホーム サン・フラワー苑 事業報告

1. 令和6年度 入居者実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入居者総数	79	77	71	70	73	72	72	73	73	73	76	75	平均 73.7
稼働率 (140名=100%)	56.4 %	55 %	51 %	50.7 %	52.1 %	51.4 %	51.4 %	52.1 %	52.1 %	52.1 %	54 %	54.5 %	平均 52.7 %
新規入居者数	1	0	0	1	4	1	3	3	1	0	4	1	19
退去者数	2	2	6	2	1	2	3	2	2	0	0	2	24
退居 理由 内訳	①施設内逝去	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2
	②病院で逝去	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	3
	③他の施設へ(※)	1	1	2	0	0	1	1	1	1	0	0	8
	④在宅へ	1	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	4
	⑤その他 (病院)	0	1	3	0	1	0	1	0	0	0	1	7

(※) ③他の施設へ 内訳

(生まれ育った地域の施設 1名・家族の住む地域の施設 2名・経済的に家族負担の少ない施設 5名)

入居者の減少は著しい状態である。業務改善委員会を7月に立ち上げ会議を重ねたが、その間8月・10月・3月とコロナ感染症発生、その感染対応におわれたり、10月に事故発生し、思うように業務改善に至らなかつた。その中で3月12日からの宿直体制への取り組みは、介護体制の整備に繋がり、日中の職員確保が出来、利用者の日常生活の支援となつた。

3回の新型コロナウイルス感染症が発症し、入居者・家族には多大なご心配とご迷惑をおかけし、結果として運営に大きく影響を及ぼす事になつた。

2. 年間行事・各委員会他報告

- ①研修会・各委員会・行事：計画通りには実施できなかつた。
- ②感染防止対策：職員は出勤時健康管理表に沿つて健康状態確認。入居者も2回／日の体温測定実施。法人内の勉強会や合同研修会に参加して知識を高めた。
- ③栄養、調理
 - ・年末に向けて米不足が発生し、年度末には発注に苦慮した。
 - ・自前厨房の特徴が十分活かされず、常時入居者に喜んでいただける美味しい食事の提供については多くの課題が残つた。
- ④職員の健康管理
 - ・健康診断：夜勤者は年2回実施、その他職員は年1回実施
 - ・検便：栄養士、調理員、月1回 井水道管理者 年2回実施
 - ・各種予防接種：新型コロナウイルス予防接種、インフルエンザ予防接種は全員実施

令和6年度 サン・フラワー・デイサービスセンター 事業報告

1. 令和6年度 利用実績

登録者総数 59名 (介護 53・総合事業 6) (苑外利用者 5名)

登録居宅数 4

月	実利用者数	延べ利用者数	平均利用者数	稼働率
4月	52	524	17.4	87%
5月	53	553	17.8	89%
6月	51	493	15.9	80%
7月	47	497	16.0	80%
8月	50	238	7.6	38%
9月	50	531	17.1	86%
10月	49	395	12.7	64%
11月	52	520	17.3	87%
12月	52	538	17.4	87%
1月	53	568	18.3	92%
2月	53	521	18.6	93%
3月	53	421	13.6	68%
月平均	51.3人	483.3人	15.8人	79.3%

- ①昨年度の令和6年1月よりサン・フラワー苑入居者の減少、介護職員の確保困難に伴いデイサービスの利用定員を25名から20名に縮小し、効率よい運営に変換した。
- ②8月、10月、3月には施設内でのコロナ感染症発症のため休業及び一部業務縮小に伴い利用者数が減少し収入減となった。

2. 職員の資質向上

デイサービス内の研修にて、様々な会議や他部署からの指摘を真摯に受け止め、今後サンフラワー・デイサービスに必要な研修に力を入れいく。

また、法人の合同研修会や同法人内の研修会にも積極的に参加して職員の資質の向上に努めた。

3. 行事・レクリエーションの充実

花見ドライブなどデイサービスを利用している方のみが参加される独自の行事、ケアハウスと合同で行っている四季折々の年間行事に参加していただき、室内での生活が中心の方に季節を感じていただけるように努力した。

また、日々のレクリエーションでも職員が交代で得意な分野のレクリエーションを提供し飽きの来ないよう創意工夫し行った。

令和6年度 ヘルパーステーションふれあい 事業報告

1. 令和6年度利用実績（総合事業含む）

	利用者数／名	身体介護／時間	生活援助／時間	総合事業／回	利用料合計／円
4月	70	387.0	290.5	69	2,793,420
5月	70	362.5	245.5	50	2,644,850
6月	65	311.0	216.0	52	2,316,570
7月	59	287.0	221.5	56	2,194,844
8月	66	273.5	169.0	52	2,002,111
9月	64	276.5	240.0	48	2,247,084
10月	65	310.0	198.0	48	1,912,057
11月	64	263.1	198.0	48	2,364,360
12月	66	448.1	250.0	52	2,386,314
1月	66	327.4	260.5	48	2,427,270
2月	69	321.7	236.0	48	2,310,710
3月	69	600.3	195.0	56	2,407,080
合計 (前年度)	793名 (910名)	4,168.1時間 (4,593.5時間)	2,720.0時間 (3,539.0時間)	627回 (842回)	28,006,670円 (35,537,265円)

2. 総括

今年度は法改正により、訪問介護の基本報酬引き下げとなり全国的にも訪問介護事業所の閉鎖などが多く取り上げられている中で、当事業所の運営状況も厳しいものとなった。サン・フラワー入居者数減少や年3回のコロナ感染症の発生があり稼働実績に影響があった。7月より業務改善委員会を立ち上げ、業務改善の見直しにより夜勤ヘルパー業務を12月末で終了とした。

また1月より利用者のニーズに対応できるよう有償サービスを開始した。職員について8月に非常勤者の採用ができたが、他事業所へ兼務とし人件費の調整も必要となっている。また職員の高齢化による人手不足などの課題もあり早急に解決に向け努力していく。今後も居宅介護支援事業所と連携を図り、日々のサービスの中で利用者の健康管理に努め日常生活がより快適に過ごすことが出来、満足していただける様に誠心誠意対応する。また各事業所との協力体制を図りサン・フラワー苑をより活気あふれる施設となるよう努め、安定した運営を目指し最大限の努力をしていく。

3. 目標に対する評価

- ・基本理念である安心、安全、安楽に生活していただけるよう、個別ニーズを尊重して対応した。
- ・利用者の日頃の状態を把握し、訪問時に異常の早期発見に努め報告、連絡、相談を関係機関と確実に行いニーズの適正化や見直しに繋げる事ができた。
- ・自立支援を目的とした専門的なサービスを行い、利用者の現状維持が図れるようサービス提供を行った。
- ・職員各自が積極的に研修に参加し、技術及び意識向上に努めた。
- ・職員各自が家族を含めた感染症予防に留意していたが、感染者発生となった。

4. サービス提供における取組

- ・サン・フラワー苑に併設する事業所として、常に協力体制を図り業務の遂行に努めた。
- ・職員各自が勤務前に健康チェック、手洗い、うがいを実施し健康管理の徹底及び感染症まん延防止に努めていたが、職員による感染があった。業務に関しては最低限でのサービスができる

ように、各関係部署と連携を図りながらサービスの提供を行った。

- ・訪問時には利用者の生活や健康観察の確認を行い、異常の早期発見に努めケアハウスと連携を図ることができた。
- ・利用者に満足していただけるために、提供したサービスの振り返りや常に創意工夫を考えるようヘルパーセンタ等で話し合いを行った。
- ・利用者の残存機能を専門的に見極め、自立支援に向けた身体機能の維持、向上が促進されるサービス提供に努めた。
- ・安全確保及び事故防止については、常に配慮を怠らずサービスの提供を行った。
- ・高齢者虐待防止及び身体拘束廃止に向けた事業所研修を行い技術及び意識向上に努めた。
- ・毎月定期的な会議を行い、利用者に係わる情報交換やサービスの留意事項など職員全員が把握できるように行った。
- ・職員が業務改善につながる提案ができる体制や、意見交換が活発にできる環境を作る努力を行い、解決に向けて前向きに進んでいける事業所となるよう努めた。

5. サービス利用拡大・促進

- ・全職員が福祉施設で働いている上で知人、親戚、近隣での困りごとや相談などを受けた場合は、直ぐにサービスを紹介できる体制をとり、居宅介護支援事業所の協力を得て同法人サービスに繋げる事ができた。
- ・関係機関（居宅介護支援事業所）との連携・情報収集、新規利用者確保に努めた。また在宅サービスに係る利用者、家族へパンフレットを配布したが、入居には繋がらなかった。

6. 令和6年度研修実施状況

月	研修内容	月	研修内容
4月	介護保険制度改革について	12月	認知症及び認知症ケア
5月	倫理と法令遵守	1月	人権擁護・身体拘束及び高齢者虐待防止
6月	介護技術（身体介護・生活援助）	2月	ハラスメント対策
7月	感染症、食中毒予防及びまん延の防止	3月	業務継続計画について（BCP）
8月	接遇について	合同研修 (1/31)	高齢者の誤嚥性肺炎と予防策
9月	事故発生と再発防止		衛生的な手洗い、手指消毒について
10月	プライバシー保護の取り組み	合同研修 (3/28)	感染症防止について
11月	緊急時の対応		ガウンテクニック

令和6年度 サン・フラワー診療所 事業報告

1. 受診者実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ総数 (名)	117	132	118	112	136	114	112	142	112	156	119	106
職員健診	0	1	1	0	2	6	3	3	4	0	0	0

(特記事項)

①患者数は入居者減少に伴い減少し、平均患者数は4.9名／日。

②診療体制は医師2名・3時間（9:30～12:30）／日・3日／週。

診療内容は定期の診療・投薬・検査、その中で生活習慣病の方に対しては、健康相談・衛生指導を定期的に実施すると共に、鍼灸の自由診療、ホットパック、爪の外科的処置（爪白癬、巻爪等の爪切り、やすり）等が中心。

予防接種は11月にインフルエンザワクチン、1月に新型コロナウイルスワクチンの予防接種を入居者、職員に実施した。

健康診断は職員（年一回・夜勤者は年二回実施）、新採用者に実施した。

事業報告の附属明細書

令和 6 年度事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、
事業報告の附属明細書は作成していない。

社会福祉法人ふれあい